■リモートワークの種類について

リモートワークには、大まかですが以下のような種類があります。単に、リモートワークを導入するといってもさまざまな方式がありますので、会社の状況、社員の事情などを顧慮した方式をご提案させていただきます。

1. 在宅勤務
2. モバイルワーク
3. 施設利用型
4. ハイブリッド・リモートワーク
5. フルタイム・リモートワーク
6. リモート・アウトソース
7. テンポラリー・リモートワーク

●在宅勤務

自宅で勤務し、メールや電話、オンラインでの会議などを利用して仕事をこなします。勤務時間のすべてを在宅勤務に充てる方法や、週に2から3日だけ在宅勤務を行う方法などさまざまな体系を作ることができます。

●モバイルワーク：外出先や顧客先などで、パソコンやタブレット等モバイルデバイスを用いて仕事をこなすテレワーク方式です。外出や移動が多い営業職、現場職で行われることが多く、会社のサーバーやクラウドなどにあるデータを常時アクセスできるようにしておくことが必要になります。

●施設利用型

リモートワーク用に設置されたサテライトオフィス、複数の企業や個人が利用できるシェアオフィスなどを利用して仕事をこなす方式です。社員の通勤時間を削減できる、自宅では仕事しづらい人にとっても便利な方式です。

●ハイブリッド・リモートワーク

期間内において会社で働く日と、リモートで働く日が混在するような方式です。例えば、会社勤務は週2日以上、あるいは在宅勤務する時間は月60時間まで、というように取り決めることがあります。子育てや介護といった個人的な用事で自宅を空けられないという社員などに、出社できないという罪悪感を持たせないことでも有効です。

●フルタイム・リモートワーク

勤務時間の100%をリモートで行う方式です。自宅の事情がある場合、会社から遠い地に在住している場合など、出社ができない社員に導入します。

●リモート・アウトソース：クラウドソーシング（外注）とも呼ばれます。オンライン上で不特定多数の人に仕事を発注する方式です。

●テンポラリー・リモートワーク：一時的にリモートで業務を行う方式です。全員が集まる会議に出席できない、一堂に参集できないといった場合に実施します。クラウド上のデータを使って共同で作業ができ、オンライン会議で直に向き合っての会議が可能になります。